

就労支援実務者の専門性と支援力に資する知識・スキル等に関する研究 －効果的な就労支援に必要な知識・スキル等リストの作成－

○大竹 祐貴（障害者職業総合センター 上席研究員）

藤本 優・稲田 祐子・堀 宏隆（障害者職業総合センター）

竹内 大祐・唐沢 武・春名 由一郎・野口 洋平（元障害者職業総合センター）

1 背景と目的

地域の障害者就労支援の成果には、幅広い知識・スキル等の習得や組織の人材育成の取組が関連しており、それらは従来、必ずしも雇用と福祉にわたる関係者の共通認識として言語化・体系化されてこなかった。そのため、研修実施機関が研修内容を検討したり、就労支援機関に所属する人材育成担当者が就労支援実務者と共通認識をもって専門性の向上に取り組むために必要で具体的な内容が十分に収集できていない。

本調査研究では、研修等の効果的な内容の検討に資することや、就労支援実務者と人材育成担当者が共通認識をもって専門性の向上に取り組むことができるよう、就労支援機関における多様な就労支援実務者が効果的な支援を実施するために必要な知識・スキル等の内容を明らかにすることを目的とした。そして、効果的な就労支援に必要な知識・スキル等を具体的に言語化し、体系的なリストとしてまとめることとした。

2 方法

(1) 文献調査の実施

効果的な就労支援に必要な知識・スキル等の内容は、社会の変化や支援技術の発展等により日々更新されていくことを考慮し、文献調査にあたっては、2003年から2023年に発刊されたものに限定し、知識・スキル等に関する情報を抽出した。国内文献については、論文検索データベースを用いて、以下のキーワードで検索した（就労支援 or 職業リハビリテーション or 就業支援 or 就労移行支援 or 就労定着支援 & 知識 or スキル or コンピテンシー or 専門性）。また、海外文献についても、論文検索データベースを用いて、以下のキーワードで検索した（vocational rehabilitation or employment support or rehabilitation counseling or employment specialist or employment service & knowledge or skill or competencies）。

これにより収集した知識・スキル等の具体的内容について、内容の同一性や類似性により整理・分類するとともに、用語の統一や意味内容の理解しやすさの観点から、必要に応じて複数の文章を一つにまとめ推敲を行い、知識・スキル等リスト（網羅的リスト）として整理した。

(2) 有識者ヒアリングの実施

上記により整理した網羅的リストについて、就労支援分野の有識者（学識者及び障害者就業・生活支援センター、就労移行／定着支援事業所、地域障害者職業センターの管理者）10名に、内容の明確化、不適切な内容の修正、不足している情報の追加の観点からヒアリングを実施し、その意見を踏まえ、知識・スキル等リスト（草案）を作成した。

(3) 地域の就労支援機関からの意見集約

知識・スキル等リスト（草案）について、前述の有識者や全国の地域障害者職業センター（支所を含む）からの情報提供により、地域で効果的な就労支援を実施している支援機関（障害者就業・生活支援センター、就労移行／定着支援事業所）154機関の経験豊富な支援実務者へ、ウェブフォームによるアンケート調査を依頼し、各知識・スキル等の重要度（「重要度がとても高い」「重要度が高い」「どちらとも言えない」「重要度はあまり高くない」「重要度は低い」の5件法）や適切性の評価（「適切」あるいは「要修正」の2件法）、修正が必要な場合はその理由や修正案、不足している情報の追加等についての意見を集約した。

3 結果

(1) 文献調査による知識・スキル等の網羅的整理

文献調査により、網羅的リストとして、大見出し11項目、中見出し22項目、小見出し49項目からなる知識・スキル等が整理された。障害者就労支援に関する理念、基本姿勢、障害者就労支援の全ての場面で必要な知識、相談・記録・伝達、アセスメント、プランニング、自己理解・決定、社会的行動、就職活動、職場適応、企業支援、関係機関連携を網羅する幅広い内容となった。

(2) 有識者へのヒアリングによる知識・スキル等リスト（草案）の作成

10名の有識者からは、知識・スキル等リスト（網羅的リスト）について多くの意見をを得ることができた。国内外の文献等から作成した網羅的リストの内容で不必要とされる項目はほとんどなかったが、全般的に障害者就労支援の現実の課題を踏まえ、特に以下の知識・スキル等についての明確化や強調が必要であることが示唆された。

- 障害者本人の労働の権利、労働関係法規・雇用管理

の知識

- 合理的配慮を含めた障害者本人と事業主双方への支援
 - 個別支援ニーズに対応できる地域関係機関等との連携スキル
 - 障害者本人の自己決定支援
 - 就職活動から職場適応、生活支援まで一貫した支援
- 有識者からの意見に基づいて不適切な内容の修正や不足している情報の追加等を行い、大見出し16項目、中見出し64項目、具体的内容は200項目から構成される知識・スキル等リスト（草案）を作成した。

(3) 地域の就労支援機関からの意見を踏まえた知識・スキル等の明確化

知識・スキル等リスト（草案）に対する調査を、154機関の就労支援実務者へ依頼し、111機関の就労支援実務者から回答が得られた（回収率72.1%）。

回答者からの意見に基づいた知識・スキル等リスト（草案）の修正方針等は以下のとおりである。

- 大見出しについて、一部見出し名の変更等をして、幅広い知識・スキル等を16領域にまとめた。
- 中見出しについて、65項目中64項目で重要度は高い（5点満点で4点以上）との回答であった。重要度が低くなった1項目は、他の項目と統合した。
- 具体的内容200項目について、150項目は回答者の90%以上が適切であると評定された。適切と評定された回答が90%未満の50項目については、支援の実態や必要性を踏まえた修正、よりわかりやすい内容・表現への修正等を実施した。

以上の手続きを経て、効果的な就労支援に必要な知識・スキル等の具体的な内容は、16の領域に渡る幅広いものであることが明らかになり、これをさらに65項目に分け、それらの具体的説明について201の詳細項目を明確化することで、「効果的な就労支援に必要な知識・スキル等リスト（完全版及び要点版）」を作成した。以下に効果的な就労支援に必要な知識・スキル等の16領域を示す。

1. 障害者の就労支援の意義
2. 就労支援における支援者の基本的姿勢
3. 障害者就労支援に関する法令・制度・サービス
4. 企業経営と雇用管理
5. 様々な相手（障害者・事業主・関係機関・家族等）との相談・説明
6. 支援者間の記録・伝達
7. 障害者の自己理解・自己選択・自己決定の支援
8. 就労支援における障害者のアセスメント
9. 就労支援のプランニング
10. 職業生活に必要なスキル習得に向けた支援

11. 仕事の選択・求職活動や職場への移行の支援
12. 職場（実習中含む）への適応支援
13. 職業生活を充実させるための体調管理や生活の支援
14. 障害者雇用に取り組む企業のアセスメントと支援
15. 関係機関や家族との連携
16. 障害者雇用の啓発と支援人材の育成

4 考察

従来から障害者就労支援を実施している関係者においては、必ずしも言語化されていない「共通基盤」があることが示唆されてきた。今回、効果的な就労支援に必要な知識・スキル等の具体的内容の言語化・体系化を目指した調査研究の実施により、その具体的内容が近年の就労支援の大きな枠組みの変化を反映した多岐にわたるものであることを明らかにすることができた。このことは、今後本格化する雇用と福祉の分野横断的な基礎的知識・スキルを付与する研修（障害者の就労支援に関する基礎的研修。以下「基礎的研修」という。）等の各種研修や地域障害者職業センター等の助言・援助の効果的な実施等に向けた重要な成果と考える。

上記の方法により完成した効果的な就労支援に必要な知識・スキル等リストについては、就労支援実務者や人材育成担当者が共通認識をもって専門性や支援力の向上に取り組むために活用することが期待される。一方で、今後の課題としては、①知識・スキル等の習得等の優先度に関する機関や地域等の多様な要因の検討、②制度・サービスの発展を踏まえた知識・スキル等の内容の見直し、③作成した知識・スキル等リストの活用状況等の把握、④就労支援実務者のキャリアパス（それぞれの知識・スキル等について、いつまでに・どの程度の水準まで習得することが望まれるのか等）の明確化、⑤研修・OJT・情報交換等の人材育成の取組の実施状況や効果の検証、といったことが挙げられ、引き続き検証していく必要がある。

なお、本調査研究の成果を活用し、障害者職業総合センター職業リハビリテーション部において、「まなびピット」¹⁾が開発されている。「まなびピット」は、現在の知識と経験の状況、学習を希望する内容を視覚的に把握できるツールとして、基礎的研修修了者を中心に今後一層活用されることが望まれる。

【参考】

- 1) 就労支援機関等に対する就労支援ノウハウの提供、職リハ専門人材の育成支援（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構ホームページより）
<https://www.jeed.go.jp/disability/supporter/supporter06.html>